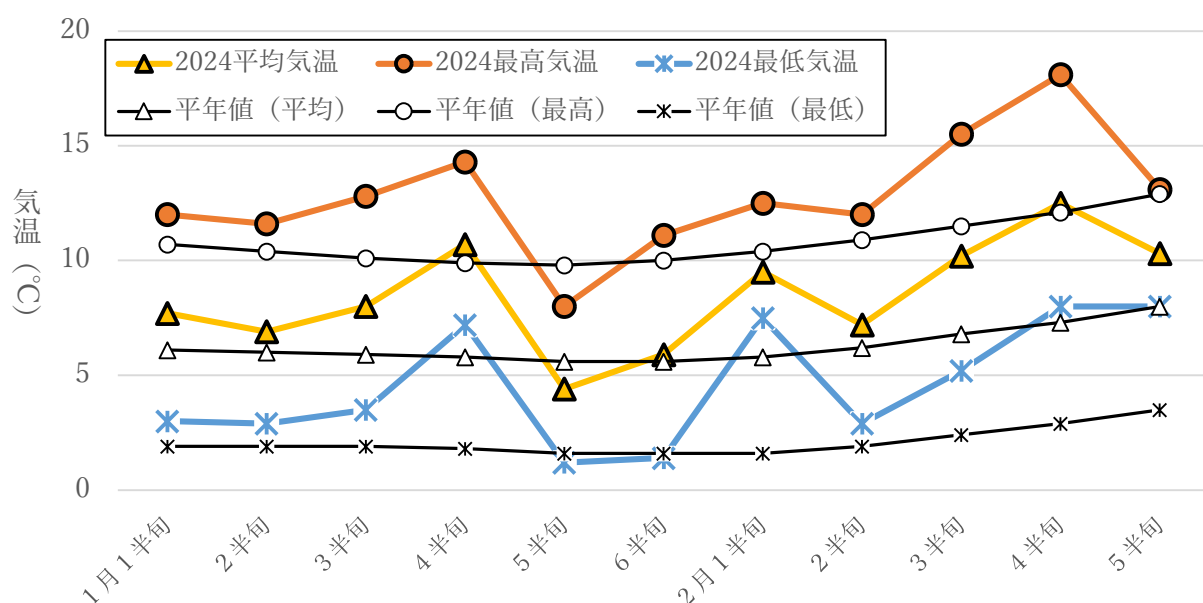


4月になり病害虫の防除が本格的に始まります。今年も暖冬傾向で推移していることから果樹の生育や病害虫の動きが早まると予想されますので、園内の様子をこまめに確認し、適期防除を逃さないようにしましょう。今月は特に、各種病害の重要な防除時期となりますので本稿を参考に発芽時期や開花期前後の防除を徹底してください。また、病害に限らず害虫についても、防除が遅れるとその後の対応が難しくなりますので、しっかりと適期防除を行いましょう。



露地カンキツ

●そうか病対策

新葉の展葉初期(最も伸びた新梢が1 cm 程度の時期)が本病の防除適期であり、この時期にデランフロアブル 1,000 倍を散布してください。デランフロアブルにかぶれる場合はストロビードライフフロアブル 2,000 倍を散布しましょう。

また、ミカンハダニが発生している園地では、マシン油乳剤 200 倍を加用します。デランフロアブルについては、展葉初期であればマシン油乳剤による薬害もなく混用が可能です。ストロビードライフフロアブルについては、マシン油乳剤と混用する場合、3,000 倍とします。



写真1 そうか病の罹病葉・被害果

●かいよう病対策

発芽前から5月頃までが本病の重要な防除時期です。本病にかかりやすい品種(中晩柑類)に加え、温州ミカンでも昨年かいよう病が発生した園、風当たりが強い園、幼木園、高接ぎ園では、4月中下旬(展葉初期)にクレフノン200倍を加用した銅水和剤(コサイド3000 2,000倍またはフジドーLフロアブル1,000倍)またはアビオンE 1,000倍を加用したICボルドー66D 60倍を必ず散布してください。

また、今後の多発生を防ぐため、罹病葉や罹病枝は可能な限り除去しましょう。罹病枝の除去ができない場合は、病斑部を削り、取り除きます。

●カイガラムシ対策(ヤノネカイガラムシ・ルビーロウムシ)

発生が多い園地では、4月下旬にアプロード水和剤1,000倍にマシン油乳剤97%100倍を加用して散布します。この時期に越冬雌成虫に対し、上記の薬剤を散布することで、第1世代幼虫の発生を抑制することができます。なお、薬剤抵抗性の発達を抑制するため、アプロード剤の使用は年1回とします。

ハウスミカン

●ミカンハダニ対策

収穫2か月前を目安にダニコングフロアブル2,000倍やダニオーテフロアブル2,000倍、バロックフロアブル2,000倍等を散布ムラがないよう丁寧に散布しましょう。

●アザミウマ類対策

4月下旬頃から、ハウスサイドを開放することでアザミウマ類の侵入が始まり、果実被害が問題となります。侵入を防ぐため、開放部にアルミ蒸着シートや光反射シート織り込みネ

ットを設置しましょう。また、ハウス周囲に1～2m幅のタイベックシートを設置するとより効果的です。

アザミウマ類は、種類によって効果の高い薬剤が異なるため（表1）、トラップ調査等により種類の確認を行ったうえで、薬剤を散布しましょう。なお、確認方法が分からない場合は、農業振興センター等の指導機関に問い合わせして下さい。

表1 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	IRAC※ コード	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキイロアザミウマ及び ネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル	34	2,000倍	7日前まで
	ディアナWDG	5	10,000倍	前日まで
	スピノエースフロアブル	5	4,000倍	7日前まで
ミカンキイロアザミウマ	ウララ50DF	29	5,000倍	7日前まで
	コテツフロアブル	13	2,000倍	前日まで
ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル	21A	2,000倍	前日まで

※殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

ナシ

●黒星病対策

開花前後は黒星病の最も重要な防除時期です。散布する薬剤は生育状況によって異なるため、園内の生育状況をこまめに観察し、時期を逃さないよう薬剤散布を行いましょう（表2）。スピードスプレーヤーで散布する場合は、①全列走行を行い、葉の表裏両面に薬液をしっかりと付着させること、②園の外周部など薬液がかかりにくい場所は手散布を行うことが重要です。また、本病の発生が多い園（特に露地）では、薬剤散布間隔が10日以上空かないよう注意してください。

なお、せん定枝や落葉などが園内にあると菌密度が高く防除効果が上がりにくいいため、まだ落葉等が残っている場合は早急に処分を行いましょう。その際、樹の周囲や園の隅に落葉が残らないようしっかりと確認を行いましょう。

表2 ナシ黒星病の防除薬剤

時期	薬剤名	系統名 (FRACコード※)	希釈倍率	備考
開花直前	スコア顆粒水和剤	DMI(3)	4,000倍	・多発生園ではベルコートフロアブルを加用
	アンビルフロアブル		1,000倍	
	スクレアフロアブル	QoI(11)	3,000倍	
	アクサーフロアブル	DMI(3)+SDHI(7)	2,000倍	
交配3日後	ベルコートフロアブル	ビスガアニジン(M7)	1,500倍	・発生が問題となっている園ではDMI剤を加用
	フルーツセイバー	SDHI(7)	2,000倍	
落弁直後	スコア顆粒水和剤	DMI(3)	4,000倍	・多発生園ではベルコートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤47を加用
	アンビルフロアブル		1,000倍	
	アクサーフロアブル	DMI(3)+SDHI(7)	2,000倍	
	セルカディスDフロアブル	グアニジン(M9)+SDHI(7)	1,500倍	
	カナメフロアブル	SDHI(7)	4,000倍	
摘果期以降	キノンドーフロアブル	有機銅(M1)	1000倍	・5月上旬～6月中旬までは原則的にDMI剤を散布しない ・発生を確認した場合は、スコアやアンビルを直ちに散布
	ベルコートフロアブル	グアニジン(M9)	1,500倍	
	デランフロアブル	有機硫黄(M7)	1,000倍	

※殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

●疫病対策

4月下旬から6月にかけて降雨が続くと疫病が発生します。本病は土壌中に生息している病原菌が風雨による土の跳ね返り等によって、新梢や葉の特に柔らかい組織に感染し、新梢や果そう部を枯死させます。

過去に本病が発生した園では、土壌中に本病原菌が生息していると考えられるため、強風の後には必ずアリエッティ水和剤 800 倍等を散布しましょう。また、除草作業等は降雨時や降雨直後に行うと土壌とともに菌を跳ね上げてしまうので、晴れた日に行いましょう。

ブドウ

●黒とう病対策

萌芽直前（3月下旬頃）から新梢伸長期（5月上旬頃）が重要な防除時期です。萌芽直前はデランフロアブル 1,000 倍やキノンドーフロアブル 600 倍を散布されていることと思いますので、展葉5～6枚目、8～9枚目頃にも同様の防除を行います。また、薬剤散布後に累積 150mm 以上の降雨があれば、早急に再散布を行いましょう。

キノンドーフロアブル等は、4月下旬から感染が始まる枝膨病にも非常に有効です。

キウイフルーツ

●かいよう病対策

発生の有無にかかわらず、すべての園で必ず防除を行いましょう。発芽前から6月までは銅水和剤を主体として定期的な薬剤防除を行います。発芽前まではICボルドー66D 50倍等、発芽後はコサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）等を散布します。

枝幹から本病と思われる白色～赤褐色の樹液の漏出がある場合は、発見次第早急に切除し、傷口には必ずトップジンMペーストを塗布しまししょう。“ヘイワード（成木）”の場合は、樹液漏出箇所から褐変がみられなくなる位置まで遡って枝を切除します。幼木や“ヘイワード”以外の品種については、品種や樹の状態により切除部位や切除程度が異なるため、指導機関に相談して実施するようにしてください。

管理作業による感染拡大を防ぐため、使用した器具や手などは、エタノール70%や次亜塩素酸ナトリウム0.02%などの消毒液でこまめに消毒しまししょう。

ウメ

●黒星病対策

展葉初期および展葉期は黒星病の重要な防除時期です。展葉初期にはトップジンM水和剤1,000倍、展葉期にはインダーフロアブル5,000倍、ストロビードライフロアブル2,000倍、オーソサイド水和剤80 800倍等を散布します。